

ICT活用授業実践報告書

【 H24年度3年目研修 】

| | | | | | |
|--------------------------------|--|-----------------|---------------|-----|------------|
| 実施学年 | 4年 | 実施教科 (科目) | 算数 | 実施日 | H24. 5. 10 |
| 単元名 | 角度 | | | | |
| 本時の内容 (項目) | 角のかき方 | | | | |
| 本時の目標 | 分度器を用いて、与えられた大きさの角を作図することができる。 | | | | |
| 授業場所 | 4年1組教室 | ICT活用時の 授業形態 | 一斉学習 | | |
| ICT活用場面 | 展開 | | ICTの主な 活用者 | 教師 | |
| 活用するICT 機器 | 電子黒板、PC、デジタル教科書（フラッシュ動画） | | | | |
| ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果 | 目的：分度器を用いて、正しく作図する方法を効率よく指導するため。 予想される効果：正確な作図方法を動画で繰り返し見せることができるため、正しい作図の方法を覚えることができる。 | | | | |
| 児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容 | — | | | | |
| 利用するコン テンツ名・サ イト等 | ・デジタル教科書（大日本図書） | | | | |
| 参考にしたサ イト・文献 等 | — | | | | |
| 事前の準備 | ・電子黒板、PCの起ち上げ。 ・デジタル教科書内の該当動画を開いておく。 | | | | |

| | | |
|----------------------------------|---|----------------------|
| <p>指導計画（授業の展開）</p> | <p>導入 問題文を読み、50° の角を作図することを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>分度器を使って角をかく方法を考えよう。</p> </div> <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・角度の測り方の学習を想起しながら、各自で作図方法を考えて作図する。 ・各自のかき方を発表する。 <p>☆角のかき方の手順を知る。（フラッシュ動画を使って説明する。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題に取り組む。 ・発展問題に取り組む。（180° よりも大きい角の作図） ・練習問題に取り組む。 <p>まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> ①辺アイをひく。 ②分度器の中心を点アに合わせ、0° の線を辺アイに重ねる。 ③かきたい角度の目盛りのところに点ウをとる。 ④点アから点ウを通る線をひく。 </div> | <p>（※情報モラルの指導内容）</p> |
| <p>ICT を活用した授業時の教師側（指導上）の留意点</p> | <p>フラッシュ動画で作図方法を見せるだけだと、操作のイメージはできるが、実際の器具の持ち方や線の引き方は分からない。そこで、動画を使って作図方法を説明した後、教師用の大きな分度器や定規、チョークを使って実際に黒板に作図する指導も大切にしたい。</p> | |
| <p>ICT を活用した授業時の児童生徒の反応</p> | <p>角度の作図方法がフラッシュ動画で示されるのを集中して見ていた。スムーズに動画が流れるので、集中を切らすことなく「なるほど。」と反応したり頷いたりしながら見ていた。そして、「早く描いてみたい。」と意欲的に作業に取りかかることができた。</p> | |
| <p>ICT を活用した授業後の評価（実践の手応え）</p> | <p>フラッシュ動画で作図方法を示すことで・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師用の大きな分度器や定規を使って作図するのは異なり、ずれたり失敗したりすることなく正確に作図方法を示すことができた。 ・時間をかけずに何度でも同じ手順を見せることができるので、効率よく子供に指導することができた。 ・ボタンを押すだけで動画を流したり、途中で止めたりすることができるので、教師が子供の方を向きながら適宜ポイントや留意点を説明することができた。 | |
| <p>今後の課題</p> | <p>教師だけでなく、児童にも電子黒板に触れる機会を積極的に設けたい。教師から児童へ一方的に働きかけるのではなく、児童から教師、児童から児童といった双方向な活用ができるようにしたい。</p> | |

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。